

帰国生徒 教育相談の様子

5月中旬に1、2年生の帰国生徒（3年生は希望生徒）を対象とした教育相談を行いました。教員と生徒が中庭のテラスなどで、学習や学校生活、今後の目標について話し合いを行いました。穏やかな雰囲気の中で行われた面談では、生徒たちもリラックスした様子で、自分の考えや学校生活で感じていることを話すことができました。教員にとっても生徒一人一人の思いや課題を理解する貴重な機会となりました。今後も生徒との対話を大切にしながら、安心して学校生活を送れるよう支援を続けてまいります。



～保護者の方より～

たくさんの衣装デー

我が家で通っていたインターナショナルスクールとローカル幼稚園では、たくさんの衣装デーがありました。シンガポールの祝日であるチャイニーズニューイヤー(中国系)、ハリラヤプアサ(マレー系)、ディパバリ(インド系)でその国の衣装を着る他に、インターナショナルデーには自分の国の衣装(日本は浴衣、甚平、法被、柔道着など)、Book weekには好きな本や登場人物にちなんだ服装をしたり、STEAM weekには科学者や芸術家の服装をしたり。シンガポールの建国記念日であるナショナルデーでは赤と白の服を着ます。定番のハロウィンやクリスマスもちろんあります。用意は大変ですが、見ていて楽しいイベントでした。

3A 保護者 様 (シンガポール)

帰国後に気づいた習慣

シンガポールは外食文化が非常に発達しています。国民食のチキンライスは、鶏の旨みが染み込みに飯に茹で鶏、特製のチリと甘いソイソースを添えた逸品。人気店は長蛇の列ですが、店員さんの手際が鮮やかで、忙しい昼時でもすぐに味わえるのが魅力です。帰国して気づいたのは、店屋物を気軽に買う習慣が身についていたこと。香ばしいチキンウイングや炒飯、エッグタルトにパンダンワッフル、QQ(タピオカ)など、多彩な味覚が日常に溶け込んでいました。時にはあのピリッと辛いチリトマトソースが恋しくなります。手軽で活気あふれる現地の食習慣は、一度馴染むとなかなか忘れられない、シンガポール生活の楽しさそのものだったと感じています。

3A・1A 保護者 様
(シンガポール)